

伊豆半島の南端、石廊崎にはほど近いヒリゾ浜は、訪れる者が一様に「日本とは思えない」と感嘆する入江だ。陸路ではアクセスできない立地、神々しいほどの海の透明度、多様な生物が織りなす色彩は、見る者に畏怖さえ抱かせる。

断崖に囲まれたヒリゾ浜は、海路でしか近づけない要因に加え、付近に河川がないこと、黒潮が半島をかすめるように流れることなどが複合的に絡み合い、奇跡の絶景を形成している。砂場、岩場、ゴロタが点在する複雑な海岸線、50〜60種の魚が乱舞する浅瀬や磯場、大型の回遊魚が悠々と泳ぐドロップオフなど、熱帯の海を思わせる極彩色の世界は、本州随一のシュノーケリングスポットと呼ばれる。

浜の名が広まったのは、渡し船を運航する「ヒリゾ浜渡し組合」の設立以降だ。平成8年に組織された同組合は、インターネットによる情報発信を他に先駆けて行い、折からのクマノミブーム、伊豆半島の世界ジオパーク認定等と相まって話題になった。組合長の高野克宏さんは「かつては1日20〜30人程度でしたが、近年は年間3万人以上が訪れる観光スポットになりました。首都圏のファミリー客も多いですね」と語る。

組合は浜の見守り、清掃活動、景観保全活動にも取り組む。「ゴミは海草などの天然ゴミばかりですが、清掃活動は浜の美観を守るために欠かせない作業。今、私たちにできることは、このフィールドを守り、後世へつなぐことです」と高野さん。

秘境を語り、守り、次代へつなぐ。ヒリゾ浜には自然と向き合う人間のあるべき姿がある。



畏怖さえ感じる美しさ。  
本州随一のシュノーケリングスポット！

ヒリゾ浜 | 南伊豆町 | ★伊豆半島ジオパークジオサイト  
(奥石廊海岸ジオサイトの一部)

仲木へ行こうよ！ 写真カメラマン・Sayoko Suzuki

周囲に断崖がそそり立つヒリゾ浜。唯一の交通手段となる渡し船は環境負荷の低いエンジンを搭載している。

contents

- 01 [世界クラスの美しい“ふじのくに”]  
ヒリゾ浜
- 03 [知事鼎談]  
未来へつなぐ知と実践  
～知の拠点であり続けることを基礎に  
地域へ、そして世界へ～  
静岡文化芸術大学理事長  
有馬 朗人氏  
静岡文化芸術大学学長  
横山 俊夫氏
- 07 [スポーツの聖地づくり]  
今こそスポーツの力を信じる時  
健康寿命の延伸をプッシュ！
- 09 [県政特集1]  
アフターコロナを生き抜く！  
「フジノミクス」を展開
- 11 [県政特集2]  
ふじのくにを  
マリンバイオテクノロジーの  
世界的な拠点へ
- 13 [ふじのくにブランド]  
和ぷりか
- 14 [Living My Dream Life in ふじのくに]  
三浦 愛さん



色とりどりの魚が舞うシュノーケリングスポット。  
海水の透明度は驚くほど高い。採集や捕獲は条例で禁止されている。



ヒリゾ浜の清掃活動は、地球の宝と地域の観光資源を守るために随時実施している。



渡し舟の乗船場所は中木港。運航期間は毎年7月1日～9月30日。浜までの所要時間は約5分。日中はほぼ5～10分ごとに航路。



今年も7月から渡し船の運行を開始。組合ではライフベストの着用を推奨。モリなどの漁獲用具の持ち込みはできない。

ヒリゾ浜

賀茂郡南伊豆町中木  
伊豆急・下田駅からタクシーで約30分。  
東名高速道路・沼津ICより約120分。

【お問い合わせ先】  
ヒリゾ浜渡し組合  
0558-65-1050 (7/1～9/30)  
<http://nakagi.jp/>

